



県病医療ニュース

病院機能評価3rdG:Ver2.0認定病院

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線 7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

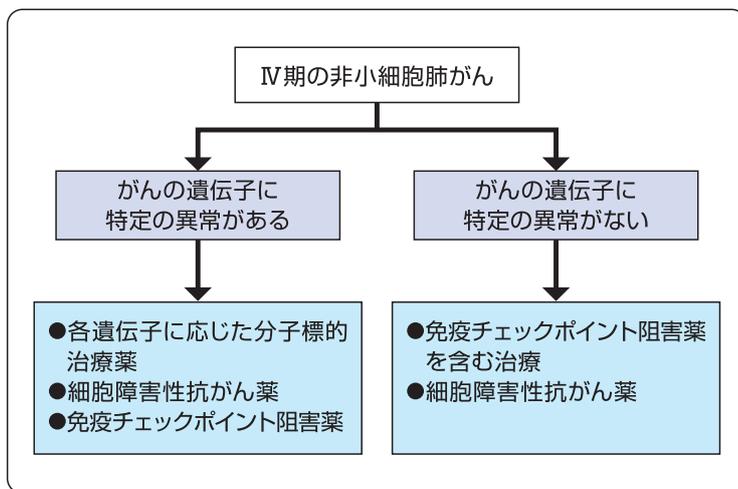
大分県立病院ウェブサイトはこちら

呼吸器腫瘍内科

非小細胞肺がんの薬物療法

肺がんは**小細胞肺がん**と**非小細胞肺がん**に分類されます。今回は大部分を占める非小細胞肺がんの薬物療法について紹介します。

病変の広がりにより病期(ステージ)はIからIV期に分類され、手術ができないIV期では薬物療法を中心におこないます。現在は、がん細胞の持つ遺伝子変異の有無や、がん細胞表面のPD-L1というタンパク質の発現状況によって用いる薬剤を選択するという個別化医療がおこなわれています。



IV期非小細胞肺がんの治療方針

(参考：がん情報サービス 肺がんについて)

① 細胞障害性抗がん剤

従来からある細胞の増殖のしくみを阻害することでがん細胞を攻撃する薬です。がん以外の正常の細胞も影響を受けます。

② 分子標的治療薬

代表的なものはEGFR遺伝子変異、ALK融合遺伝子変異などがあります。遺伝子変異を有するがん細胞を選択的に攻撃する薬剤です。この治療は高い効果を示し、比較的副作用の少ない治療です。

③ 免疫チェックポイント阻害薬

がん細胞がリンパ球などの免疫細胞の攻撃を逃れるしくみを解除する薬剤です。長期にわたって進行を来さない患者さんも一部ではいらっしゃいます。しかし、すべての患者さんに有効な治療ではない点や、免疫に関連した副作用を起こすこともある点は注意が必要です。

現在では、IV期以外でもⅡ～Ⅲ期の手術の前後(周術期)に殺細胞性抗がん剤に加えて免疫チェックポイント阻害剤や分子標的治療薬の使用、また手術が適応とならないⅢ期の化学放射線療法後の免疫チェックポイント阻害剤の使用により、さらなる治療成績の向上が期待できるようになっています。

当院でも呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科と定期的に協議して、検査や治療方針の決定などをおこない患者さんに最も適した治療が届けられるように努めています。治療方針についてご不明な点があれば、各担当医にご相談ください。

(呼吸器腫瘍内科 副部長 久松 靖史)

看護部

ストーマ看護外来

ストーマ(人工肛門・人工膀胱)を造設された患者さんを対象とした看護外来です。ストーマとは、手術によって新しくおなかに造られた、便や尿の排泄の出口のことを言います。ストーマの種類は、大きく分けて、**消化器ストーマ(便の排泄)**と**尿路ストーマ(尿の排泄)**があります。

ストーマ看護外来では、ストーマ造設後も、手術前と同様の生活を目指し、できる限り快適な日常を送れるように専門的なケアを提供しています。

ケアの内容は、

- ① ストーマ装具の選択と交換方法
- ② ストーマとストーマ周囲皮膚の手入れの方法
- ③ 皮膚トラブルの予防と対処方法
- ④ 日常生活の相談

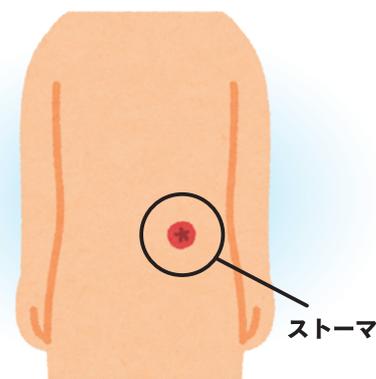
になります。

年間延べ 約140人(新規患者25名)の多くの患者さんに活用していただいています。

相談で多いものは、「最近、便や尿が漏れるようになった」「ストーマの周りが赤くなった」といった内容です。これらの要因として考えられることは、体重や活動量の変化、ストーマサイズの変化などです。ケアを通して、個々の要因を探し、改善できる方法を患者さんと共に話し合い、ケア方法を決めています。

今後も、ストーマ造設患者さんがより快適な生活を送れるように取り組んでまいります。

(皮膚・排泄ケア認定看護師 津崎 郁弥)



ストーマ装具



ストーマ装具を取り付けた状態



ストーマ装具を取り外した状態



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら